

きのくに

コミュニティスクール

vol.03
串本古座高等学校

「きのくにコミュニティスクール」とは、学校運営協議会を設置した学校(コミュニティ・スクール)とそれを支える既存の「きのくに共有コミュニティ」等との連携・協働により、社会総掛かりで教育を実現する仕組みです。

平成29年度から3年間で県内全ての公立学校に「きのくにコミュニティスクール」を導入します。県立学校は平成30年度に全て導入しました。

串本古座高校地域協議会と学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

平成28年7月に串本町、古座川町の関係者が集まり、串本古座高校地域協議会が発足しました。平成29年度には串本古座高校学校運営協議会も設置され、活動を始めました。

両協議会から出た意見を取り入れ、昨年度は中学校長や中学校保護者を対象とした学校説明会を開催しました。今年度は、地域協議会と連携した生徒の学習の場である「くろしお塾」を始めています。



「マリンスポーツ」の授業の様子



「海洋環境」の授業の様子



CGS鉄道班による啓発ビデオ制作
(JRの避難訓練に参加)



「くろしお塾」の「数学質問受付講座」の様子

地域まるとキャンパス構想

「地域と一体となった特色ある学校づくり」「地域に貢献できる人材の育成」という思いのもと、平成29年度から「地域まるとキャンパス構想」を立ち上げました。これは、地域の教育資源を活用し、地域活性化に貢献する人材の育成を目的としたものです。

特に本校グローバルコースでは、地元ダイビング協会と協力した「マリンスポーツ」、地域の特色や魅力を自然科学分野から学ぶ「海洋環境」など、様々な特色ある授業を行っています。また、このグローバルコースでは、平成29年度から、全国募集を行い、県外の生徒と地元の生徒が共に学んでいます。

地域貢献を目的としたCGS(地域包括支援部)では、地域の方々と協力して、「まぐろ」や「ゆず」などの地域産品を使った商品の開発、JRとコラボした防災への取り組みなど、特色ある活動を行っています。



これからの取り組み

学校設定科目やCGSの活動では、今後、和歌山大学や早稲田大学、トルコ大使館などとコラボした取り組みを進めていきます。また「くろしお塾」では、英語検定の受検をめざす講座など、地域の小・中学生も参加できる講座を広く展開していきたいと思っています。小・中・高等学校がコミュニティ・スクールとして地域とともに一体となり活動を進めることで、串本古座高校が地域活性化の核となる存在になればと考えています。



CGSトルコ班によるシミット作りと文化祭での販売

きのくに 教育めぐり 教育長挨拶

今日 日高町教育委員会



日高町は、黒潮の影響を受ける豊かな漁業と平野部の肥沃な耕地があり、山間部の果樹栽培などの農業が息づく、自然と人が結び合う町です。

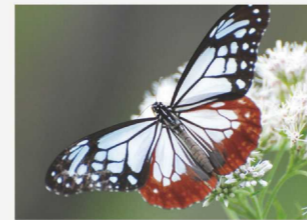
本町は、就学援助制度や学童保育などの子育て支援に力を入れており、年少人口比率は全国平均及び県内平均を上回り、総人口数は増加傾向にあります。

町の中央部に中学校、その周囲に3小学校が位置し、小学校では定期的に合同行事を実施するなど、連携がとやすい環境にあります。

家庭や地域と学校間の連携を大切に教育環境の維持に努め、地域社会を愛し、次世代を担う心豊かな青少年を育成するための教育活動を展開しています。

日高町教育委員会 教育長 玉井 幸吉

旅する蝶～渡り蝶・アサギマダラ～



渡り蝶アサギマダラ



観察会

そのかわいらしく美しい姿からは想像もつかない過酷な旅をする渡り蝶・アサギマダラ。秋の南下移動時には、本町にも飛来し、多くの研究者や愛好家が訪れます。

生命の尊さや自然の素晴らしさを体感してもらうため、飛来時期に町内児童を対象とした観察会を毎年、実施しています。

昨年5月には、各学校にこの蝶の好むフジバカマの苗を児童生徒たちが植栽し、秋にはアサギマダラが日高中学校を訪れてくれました。

勇気の人 国境を越えた思いやり

1957年2月10日、日ノ御崎沖合にて、嵐の中、燃え上がる船から日本人を救助しようと試み、亡くなったデンマーク船の機関長ヨハネス・クヌッセン氏。氏の慰霊碑には今も、地域住民の方が献花を絶やさず、氏の救命艇が静かに保管されています。

昨年、クヌッセン氏殉難60周年記念式典を開催し、式典会場と3小学校で、バルーンリリースを行いました。「クヌッセン機関長」絵画コンクールには、町内の小中学生から、思いやりや優しさが詰まった素晴らしい作品の応募が数多くありました。

これからも、昨年で150年を迎えた日本とデンマークの友好関係を深めつつ、「人を思う気持ちに国境はない」ことを教えてくれた氏の尊い行為を、次代の子供たちに伝えていきたいと思っています。



クヌッセン救助艇



クヌッセンバルーンリリース

日本遺産に
認定

「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～



土で固めた広村堤防



避難場所となった広八幡神社

「稲むらの火」で有名な広川町のストーリー「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～が和歌山県として4件目の日本遺産に新たに認定されました。

広川町の海岸には、見上げる程の土盛りの堤防、沖の突堤、海沿いの石堤と多重防御システムが構築されています。江戸時代、津波に襲われた人々が復興を果たしたこの町に、日本の防災文化の縮図が浮かび上がります。防災遺産は、世代から世代へと災害の記憶を伝え、今も暮らしの中に息づいています。